

## 塩ビ工業・環境協会の体験型出前授業は大人気！

2026年4月22日  
塩ビ工業・環境協会

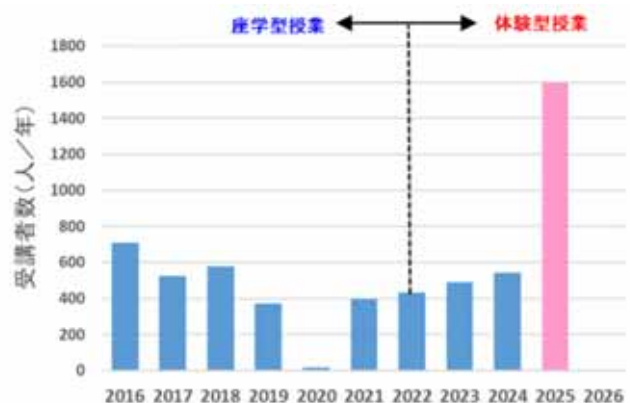
2025年4月24日の記者会見トピックス「塩ビ工業・環境協会が提案する体験型授業が探求学習の扉を開く」で当協会の出前授業について紹介しましたが、この出前授業は、体験型授業における「実験」を通じて、プラスチックや化学に興味をもってもらうこと、リサイクルの基本である比重分離を体験し、プラスチックや環境問題を学んでもらうことをテーマに全国各地の教育機関で実施しています。

とくに、2025年度の出前授業の依頼件数が飛躍的に伸びており、当協会の体験型授業はおもしろくて、生徒の興味を誘い、さらに理科や化学の勉強にも役に立つとの評価をいただくことも多いことから、出前授業の最近の動向をお知らせします。

当協会では、2007年より出前授業に取り組んできましたが、2022年には従来の座学中心の授業から実験を重視した体験型授業へと大幅に改変しました。これは実験(体験)と教科書などから学ぶ知識を結びつけることで、子どもたちに興味を持たせるとともに現実に起きていることに触れることで様々な気づきや発見につながることを期待しています。そのような体験のなかで塩ビ等プラスチックを理解し、その有用性やリサイクルなどの必要性などを知ってもらうことを目指しています。

当協会の出前授業は、代表的なプラスチックの原料や特性、用途について学ぶことを目的とした教育活動です。授業時間は45～50分で、パワーポイントによる説明と2つの実験を交互に組み合わせた構成となっています。内容は、消しゴム作り実験(オリジナル消しゴムの作製)およびプラスチックの比重分別実験と、それらに関連した知識等の説明から構成されています。

長年こういった出前授業を地道に続けてきましたが、ここ数年(2024年度まで)は受講者数は多くても年間500人くらいの規模でした。それが昨年2025年度は後半から多くの授業要請を受け、合計40クラス、約1,600人と飛躍的に増大しました。とくに体験型に切り替えてからの特徴として顕著なのは、リピート率の高さです。生徒たちが自ら開発したサバ缶が宇宙日本食に採用されたということでも有名になった福井県立若狭高校からは毎年依頼をいただいています(若狭高校での授業の様子は、2025年3月の「PVC ニュース No124」(手元資料参照)でも紹介しています)。



2008年からの文部科学省の中学校学習指導要領(理科)の改訂(2012年4月1日全面実施)のなかで、身の回りの物質として新たに「プラスチック」が追加され、日常生活や社会の中で使用されてい

る代表的なプラスチックの性質や用途について学習することが求められました。その後、2017年に改訂された中学校学習指導要領(2021年4月1日全面実施)では、日常生活の場で幅広く使用されているプラスチックが私たちの生活を支えていることへの理解が求められています。昨今の環境問題や資源循環、サステナブル社会の実現といった時代の流れのなかにおいて、学校での教育内容も変わっていきいます。また、文部科学省や環境省の教育施策資料ならびに自治体による出前授業の実施報告などを見ると、最近の出前授業では、当協会のような座学と実験を組み合わせた体験型の授業が増えてきており、とくにプラスチックや廃棄物、地球温暖化、気候変動、太陽光発電といった題材が多く取り上げられています。このように教育現場での出前授業のニーズはかなりあると考えています。

実際に、出前授業を実施した学校の教員の方々からは、例えば「たこ焼き型消しゴム」の作製実験について、単なる作業にとどまらず、加熱温度や時間などの加工条件を変えることで、最終製品に発現する機能が大きく変化する点や、その要因を電子顕微鏡写真と関連付けて理解できる点が【ものづくり】における【考える力を育てる】ことにつながっている、といった評価をいただいています。こういったことを理解することで、消しカスが発生する理由やその色が黒い理由、消字機能の仕組みなどについても視覚的に考察することが可能となり、教材として好ましいということでした。また、こうした考察の深さは生徒・学生の年齢によって異なり、年齢が高いほど理解が深まる傾向が見られます(高校では基礎科学に位置付けられているようです)。授業での位置づけは、小学校では「環境教育(リサイクル)」、中学校では「プラスチック・SDGs・理科の授業」、高校では「基礎化学」や「科学と人間生活」となることが多いようです。当協会の出前授業のカリキュラムは、こういった幅広い教育ニーズに対応していくことも可能です。



このように様々な教育シーンでの活用が考えられますが、必ずしも学校だけではなく、大人へもアピールできる可能性があります。最近の傾向の一つに学校単位ではなく、教育委員会や自治体(市区町村)などの環境カリキュラムなどで、親子で学ぶ取組みへの要請も増えています。今後、成人向けの研修会やセミナーという取り組みにもつなげていくことができるのではないかと考えています。

当協会は、今回ご紹介したような広報・教育活動を通じて、塩ビについて正しく理解していただけるよう、今後も積極的に取り組んでまいります。引き続き、皆さまのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。なお、出前授業にご関心のある方は、当協会のホームページよりお気軽にお問い合わせください。日本国内であれば、無料で出張対応いたします。

以上